



手作り弁当がつなぐ、地域の見守り

市川町では、70歳以上の一人暮らし高齢者や高齢者夫婦に、ボランティアが調理した弁当を届ける「給食サービス」を平成4年より実施している。現在はおおよそ120名の地域の方々に手作りの弁当を届ける活動を続けている。

今年度からは月2回の配達だった高齢者夫婦世帯への給食サービスの回数を増やした。市川町社協では、民生委員やボランティアグループと連携して、さまざまな生活支援サービスを実施することで、地域での見守りネットワークづくりを進めている。

多くのボランティアの手で届ける

「二、三日暖かく過ごしやすくて良かったですね」。弁当の包み紙に、調理ボランティアのメンバー直筆のメッセージが添えられている。20人ほどのメンバーたちは、広い調理室を最大限に活用し、約5時間かけて一品一品を丁寧に作り上げていく。

出来上がった弁当は、配達ボランティアが調理場のある福祉センターから地区ごとに分かれ、高齢者に直接配達をする民生委員へと届けている。このように多くの人の手を介して、弁当は高齢者の元へと届けられている。



食中毒を起こさないよう、しっかり熱を通して調理

弁当の配達から見守り・助け合いへ

高齢者の自宅へ弁当を届ける民生委員は、ただ弁当を渡して帰るのではない。「最近体の調子はどうなの?」「何か困り事はない?」などの自然な会話から、ちょっとした助け合いが生まれている。ある時には、配達して声を掛けても返事がなく、心配した民生委員が社協に相談して職員と共に中に入ってみると、体調不良で動けなくなっているところを発見され

近況も聞きながら、大切に届けます!

た事例もあった。民生委員と社協との連携で、早期対応に結び付くことができた。

このように、社協では給食サービス等の在宅福祉サービスの実施を通じて、食事の支援と見守りを組み合わせながら、多くの地域住民の協働により一人暮らし高齢者の生活を支えている。



取材を終えて

高齢者が在宅生活を安心して続けるためには、さまざまな支援が必要ですが、その中でも食事の支援は重要です。そして、食事とともにコミュニケーションや見守りも届ける給食サービスは、住民同士の支え合いと地域のつながりをつくっていく上で、大きな役割を果たしていると実感しました。

会長から 市川町社会福祉協議会 会長 佐野 茂樹

市川町では少子化が進んでおり、今年3月には、3校あった中学校のうち1校が廃校となりました。また高齢化率も30%を超えるなど高齢化の流れにも拍車がかかっており、さまざまな福祉課題が見え隠れしています。

市川町社協では、給食サービスをはじめさまざまな在宅福祉活動に取り組んでおりますが、それらの活動がきっかけとなり福祉課題が見つかることがあります。こうした課題に地域の皆さんと取り組んでいけるよう「ささえあい 共に生きる やさしいまち」をスローガンに地域福祉の推進を進めてまいります。

